日本地震工学会論文集　第11巻、第4号、2001

兵庫県南部地震以降の被害地震データに基づく建物被害関数の検討

翠川三郎[1)]、伊東佑記[2)]、三浦弘之[3)]

1) 正会員　東京工業大学人間環境システム専攻、教授　工博
e-mail : smidorik@enveng.titech.ac.jp
2) 東京工業大学人間環境システム専攻、前大学院生　修士(工学)
3) 正会員　東京工業大学人間環境システム専攻、助教　博士(工学)
e-mail : hmiura@enveng.titech.ac.jp

要　約

2003～2008年に発生した７つの被害地震での罹災調査による建物被害データに基づいて、木造・非木造建物およびそれらの築年別の被害関数について検討した。被害率と最大加速度との相関は低く、計測震度や最大速度との相関は同程度に高いことを確認した。得られた被害関数は、兵庫県南部地震のデータに基づくものに比べて、1)震度の増加による被害率の立ち上がりが急で、2）震度6強程度以下では同一の震度でより小さな被害率を与え、3)新基準と旧基準の被害関数の違いが小さい傾向にあることを示した。

キーワード：　建物被害、被害関数、計測震度、最大速度、最大加速度